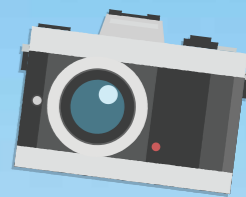


珍百景!?

# 白神の“農”な景観



耳が無いのか 山田の案山子

山では鳥が かあかと笑う

ろ夫で威して かんて居れど

山田の中の 一本足の案山子

歩けないのか 山田の案山子

朝から晩まで ただ立ちどおし

天気のよいのに 蓑笠着けて

一本足の案山子

山田の中の

かかし  
案山子

尋常小学唱歌



能代市檜山地区の県道4号線沿いの休耕田に7月末頃から1体ずつ増え始め、9月8日現在では多種多様ユニークな13体の案山子が立ち並んでいます。県道を走行するドライバーは徐行しながら、そこに立ち並ぶ案山子を車窓から驚いた表情や、笑顔で覗き込みながら通り過ぎていました。

案山子を製作・展示しているのは能代市檜山地区の安部隆昭さんら5人が立ち上げた「案山子制作実行委員会」のメンバー。

「ホームセンターや100円均一ショップに行った時にフットアイデアが浮かんできたり、暇な時間に新作や改良方法を考えたりと、余暇活動として楽しんでやっていますよ。」と笑顔をみせる安部さん。

立ち並ぶ案山子は自宅にある洋服や、浴衣、布団などメンバーの自宅にある不用品を用いて作成。

あのマスクを付けたあの首相によく似た案山子や、「アイーン」のポーズを決める殿様スタイルの案山子など様々。5人のユーモアセンスが結集されています。

安部さんは「今年はコロナ禍で檜山地区のみならず、全国的にも各種お祭りなどが中止され暗いムードが続いている。休耕田を活用して、見かけた人たちが少しでも楽しい気持ちになってもらい檜山からも元気を発信できればと思う。」と話します。

「案山子制作実行委員会」の目標は来年には『案山子コンテスト』を開催すること。

「開催することで、子供たちの笑い声が響きわたってこの地域が少しでも活性化してくればなと思う。可能なら檜山地区の各圃場の真ん中にポツポツと展示したいと思うけど、農家さんの作業の邪魔になるしな」と課題はまだまだある様子でした。

立ち並ぶ案山子は、通りかかる人たちには笑顔を与え、地域の稲穂を鳥獣被害から守って、豊作に喜ぶ笑顔を見届ける10月末頃まで展示されています。